

令和4年度 高等学校入学者選抜審議会 第1回専門委員会 記録

令和4年9月27日（火）10：00～11：55
 県庁9階 第一会議室

＜審議会専門委員＞

熊谷 龍一委員，浅野 直美委員，高橋 千春委員，佐藤 和夫委員，河本 和文委員，茂木 悟委員，
 佐々木 久晴委員，菅井 理恵委員

（欠席：なし）

＜事務局＞

遠藤 秀樹 高校教育課長，春日川 孝 仙台市教育局学校教育課長

（欠席：なし）

事務局	(資料の確認) (公開の確認)
	(開会)
事務局	(委嘱状・辞令交付) (委員の紹介)
高校教育課長	(開会あいさつ)
事務局	(事務局関係出席者紹介) (本会議の概要説明)
事務局	(委員長選出) (委員長あいさつ)
熊谷委員長	<p>東北大学の熊谷です。ただいま委員長の任を仰せつかりました。</p> <p>先ほど遠藤課長からのご挨拶にもありました通り、この専門委員会では、現行の入試について、それがうまく機能しているのか、また、改善すべき点がないかどうかを検証し、またいろいろな提案をしていくということが目的になると思う。</p> <p>皆様ご承知の通り、入試にかかわらず、教育活動というのは、すべての生徒達に公平で平等であり、かつ、皆が100%満足することができればそれがもちろん理想であるが、現実問題、それをすべて満たすということは非常に難しいと思う。とは言え、それで満足して、今のままで良いかというところではなく、一歩でもその目的、理想に近づけるようにしていくというのが、私たちの責務であるので、これからの将来を担う若者達のためにも、よい入試制度を作っていくにあたり、ぜひ皆様方のお力をお借りしまして、これからこの専門委員会の方進めていければと思う。どうかよろしく願いいたします。</p>
	(委員長 司会進行開始)
委員長	<p>それでは次第に沿って進める。</p> <p>まず、(1)の報告、入試制度導入まで及び導入後の経過について事務局から報告願う。</p> <p>なお、質疑についてはその都度、時間を取りたいと思う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>ただいまの(1)の報告について質問願う。</p> <p>(質問なし)</p>
委員長	<p>次に、(2)の審議、過去4年間の宮城県公立高等学校入学者選抜結果概要について、事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	審議事項2番目、過去4年間の入試の選抜結果概要について、質問願う。
茂木委員	報告感謝する。7ページで2番目の中部地区と他地区間の動きで、2つの矢印が

	<p>考えられるが、中部地区から他地区への受験、もう一つが、他地区から中部地区への受験というように2つに分けられる。内訳データがあれば教えて欲しい。</p> <p>中部地区から他地区よりは、他地区から中部地区への受験が多いと推測している。</p>
事務局	<p>具体的なことは地区ごとのデータとなるが、基本的には他地区から中部に来るのは、割合で言えば20%前後である。中部から他地区の割合は1桁程度で、中部に来る数が割合としては多い。</p>
委員長	<p>他にいかがか。</p> <p>過去4年分、特にこの制度が切り替わった3年、そしてその1年前の平成31年度の動向について報告があった。中学校、高等学校それぞれの立場から何か意見等あればお聞かせ願う。</p> <p>では、初めに中学校の佐藤委員から願う。</p>
佐藤委員	<p>改善点は、長期化が明らかに改善され、また、前期選抜で、不合格を体験してしまっただけの子供達も、入試を一本化したことで改善された。中学校の現場も、明らかに見える形で改善したと感じている。</p>
委員長	<p>高橋委員願う。</p>
高橋委員	<p>佐藤委員と同じになるが、入試事務の期間がかなり短縮し、学校現場の負担は随分軽くなったと感じる。</p> <p>また、前期選抜で合格した生徒が、2月、3月まで学力と授業へのモチベーションを保ったまま、卒業近くまで引っ張るといことがなかなか難しい場面もあったが、そこが均一になり、学校側としては大変ありがたい。</p> <p>また、前期選抜で、不合格になった生徒が、もう一度進路を見直したりという場面が、生徒や保護者の中で、不安定になることもあった。そこも改善された。</p> <p>別になるが、7ページの学科別の出願倍率で、水産が31年度は、0.77から昨年度は0.49となっている。学科自体への子供達の興味関心等もあるが、80%近かった数字が低下していることについて、何か分析などあれば、お聞かせ願う。</p>
事務局	<p>水産となると、学科数が少なく、人数が少し変わっただけで割合が大きく変化するるので、長期的に見ていく必要がある。</p> <p>農業などで増加傾向も見られるので、今後、専門学科の広報活動などについて検討も必要と考える。</p>
委員長	<p>次に、高校関係の立場からお聞かせ願う。佐々木委員願う。</p>
佐々木委員	<p>入試の一本化で、1月、2月あたりの教育活動に専念できるという点で良かったと聞いている。ただ、就学支援の関係で私立との学費の差が少なくなったことで、私立高校への入学者が増加している。公立高校も今後工夫や対策が必要と思う。</p>
茂木委員	<p>4ページの第二次募集で、増減が激しいが、令和3年度の出願者が少なく、令和4年度は増加しているのをどう考えるか。第二次募集の定員が1桁だと出願しにくく、2桁になると出願に踏み切れると聞く。令和4年度に第二次募集の出願者が多いのは、定員を満たさない学校が多かったと考える。何か分析があれば説明願う。</p> <p>2つ目は、5ページの通信制について、中学校に不登校の生徒が多くいるが、その生徒達も学びの機会を求めており、1つの選択肢が通信制と考える。微増だが、通信制の人数が増えているのは、生徒の受け皿になり良い傾向と思う。今後も取り組みを続けて欲しい。</p> <p>最後に6ページ、学科別合格者数は、増減が載っているが実際には募集人数も変動している。充足率もあると傾向が見えてくると思う。</p>
事務局	<p>第二次募集の出願者の増減については特にデータはないが、私立高校の手続きも関係するので、それも含めて考える必要がある。</p>
河本委員	<p>公立高校の入試については前後期制から移行して入試期間の短縮など改善された部分も多いと思う。ただし、中学生にとっては私立高校の受験もあるので、期間の短縮という実感は持ちにくいのではないかと。また、私立高校は定員確保が重要なので、それぞれ様々な方法で定員の確保に動いている。その中で公立高校の動向のみを見て中学生の動向を分析するというのは難しいのではないかと。入試制度の改善ということになると、公立と私立を総括した分析が必要となる。</p> <p>昨年は、中学校の卒業生が増加し、公立で多くの不合格者が出た。併願校である</p>

	<p>本校にも多くの入学者があった。以前は中学生が経済的に私立への進学が難しいと考えていた傾向があったが、最近では公立か私立か迷う生徒が増えている。公立高校の分析は必要だが、制度改革となると、実際には中学生が私立高校の入試にどのような感覚を持っているかということも分析が必要となる。</p>
委員長	<p>確かに中学生にとっては私立の受験もすべて含めて受験となる。このあたりも質問紙調査の結果で詳細に見たいと思う。</p>
委員長	<p>では次に、3番目の報告、宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査実施要綱について、事務局から報告願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>調査の実施要項全般について質問願う。</p>
委員長	<p>グーグルフォームを使っての調査ということであるが、学校への質問も含めてすべて、グーグルフォームということではどうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員長	<p>ウェブでの質問紙調査というのは、このコロナ禍が始まってから、多くのこういった調査がウェブでの調査に切り替わっている。ただし、紙での調査に比べて、顔が見えなくなってくる。もちろん紙でも匿名で実施されるが、ウェブで実施することによって何かトラブルはなかったか。</p> <p>また、回収率だが、保護者の方だと30%から25%である。この回収率についてどう考えているか。</p> <p>さらに、回答者がいいかげんに選択することも、ウェブ調査ではよく見受けられるが、この点について、何かあれば報告願う。</p>
事務局	<p>傾向としては、質問が進むと、自由記述の数は減少した。最初は色々書いているが、あえて自由記述を書かないという傾向もある。更に、提示の仕方として、生徒を介して保護者への質問も併せて依頼したので、生徒用の回答に保護者らしき回答もあった。極力除外できたが、複数回、同じ人が送る形もあった。</p> <p>ただし、紙を回収する負担がないので、協力いただいた学校、特に、先生方に対して、いわゆるQRコードを渡して、回答するのは、今の子供達は慣れているので、任意であっても生徒が36%も回答してくれた。</p>
委員長	<p>紙で実施すると、多くの場合は回収率がそれほど減らないが、ウェブ実施であるとしても回収率が悪くなるのは、いろいろな調査に当てはまる。</p> <p>特に、研究目的で実施する調査では、10%も回収率があればいいという調査データが多い中で、30%程度というのは、それなりの回答率とは思っている。</p> <p>回収や実施の手間というのは、大きく削減をされるとともに、回答していて、ウェブ形式だと途中で嫌になってしまい、やめられてしまうということがある。適当な回答などが出てくると思う。そこはバランスを見ながら実施が必要である。</p> <p>今後同様な調査を実施する場合、紙で実施するよりできるだけ母数を多くとって、エラーの率をできるだけ下げていくと良い。ただ、そのエラーをどうやって検出するかというのが大変な作業にはなるので、作業負担と精度をどこまで高めていくかを検討できると感じた。</p>
委員長	<p>他に質問願う。 ここで休憩をとる。</p>
	<p>(休憩)</p>
委員長	<p>再開する。 (4)の審議、宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査集計結果について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>説明感謝する。 資料が大変多いので、中学校・高校、それから生徒・保護者それぞれのカテゴリー別に検討する。まず全体について、質問願う。</p>
委員長	<p>カテゴリー別の結果について見ていく。まず中学校の結果について、事務局から回答傾向について追加の説明願う。</p>

事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>中学校について、質問願う。</p> <p>ではこの中学校に関しては、中学校の立場から意見を願う。初めに佐藤委員願う。</p>
佐藤委員	<p>(3)の③について、合格した生徒と受験を控えた生徒が混在するクラス運営上の負担が軽減しているという部分は、国立や私立高校の受験があって早めに受かっている子供たちがクラスの中に数名おり、その中で3月の入試を迎える。結果はやむを得ないと捉えている。同じく⑥は、入試の期間が短くなったが、中学校でもなかなか1月から3月に行事を充実させることは難しい。時期的な問題、入試前であることから子供達の体調等も考える必要がある。年度末の考査や評価も絡むので、大きく数字が上がるのは難しい。</p> <p>14ページの⑦、共通選抜だけでなく特色選抜の方法も十分考慮して進路選択を行う部分は、子供達に各学校の特色選抜の中身を、一人一人に噛み砕いて説明することが、中学校現場でできているのかと疑問に感じる。</p> <p>また、説明を聞いた子供たちが、果たしてどこまで理解ができて、それを理解した上で受験ができていのかと思うと、中学校現場も、子供達にきちん周知していく、理解してもらえるように、進路指導を行う必要性を感じる。</p>
委員長	感謝する。では高橋委員願う。
高橋委員	<p>12ページの問10番。「入試期間が短くなり、受験生として緊張が継続する負担が軽減している」と、13ページの問12番、「合格した生徒と受験を控えた生徒が混在することによる、クラス運営上の負担が軽減している」。ここは、評価3と4の数値が他の項目に比べると大きいのだが、県内の地域間でも大きな差があると思う。例えば、北部では、私立の高校を受験する生徒の数は中部に比べてかなり少ないので、この2つの質問に関しては、選択肢1や2で回答している学校が多いと思う。</p> <p>やはり、私立の受験生が多数いる学校、そういう地域性だと、12月から3月まではずっと入試事務に関わっているという負担は大きいと思う。</p> <p>それから、14ページの問16。この特色選抜の選抜方法に関しては、佐藤委員同様、この冊子が一部の教員から読みづらいという意見があった。また、生徒に説明するのもなかなか難しいところもあって、生徒や保護者が選抜方法を考慮して進路選択を行う材料としては、今ひとつという評価もある。それがそのまま、生徒の質問紙調査の結果に繋がったと思う。</p> <p>あとは、入試の事務に関しては、ここ2、3年、コロナの影響が非常に大きかった。本来、もっとすんなりいくはずの入試事務や生徒への指導が、コロナに感染した場合、或いは濃厚接触者になった場合といろいろなシミュレーションの想定が必要で、それを生徒にもきちんと伝えなければいけなかった。また、心配する保護者も多数おり、その説明、そして教員達の対応と、本来の入試事務以外のコロナ対応で煩雑さとも、ここの結果に散りばめられていると考える。</p>
委員長	私も問16の共通選抜と特色選抜の選抜方法の考慮の部分は気になった。この資料で、進路指導するのは苦勞すると思うし、調査結果もそのように出ていると思う。もし現場の先生方から、こういう資料があればという情報があればお聞かせ願う。
高橋委員	<p>決定打ではないが、求める生徒像というのは高校間であまり差がないように感じた。「志望動機が明確である」、「意欲的に授業に取り組む」など、どこの高校にも共通しているものを書いてある。中学校側から言えば、当たり前のことは置いておいて、それ以外の部分をわかりやすく示して欲しいという意見が多い。生徒からも、読んでいて学校間の差がよくわからないという声が多くあった。</p> <p>私立高校からいただくいろいろな資料を見ると、ポイントが打ち出されており、生徒からは好評である。</p>
佐藤委員	まず、求める生徒像・選抜方法一覧の表については、シンプルにまとめられていて、我々教員が見たときにはいいのかなと思う。改めてこれを子供達に説明するときに、子供たち目線のイラストがあったりなどすると良いのではないかと。生徒が、この学校だったら、自分のこういうところが有利になるなどと捉えられるよう

	<p>な、何か子供たち目線のペーパーがあるとよい。面談等で、資料を見ながら、こちらの学校はこういう子供達を求めている、例えば、特色選抜であれば、君はこういう成績を3年間修めているから、こういう部分ではもしかしたら有利かもしれないよねというような、話もできるのかなと思っていた。</p>
委員長	<p>この点については、これからも改善につなげていければいいと思う。 それでは次に、高等学校の結果について見ていく。事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>高等学校に対する調査について、質問願う。 この点については、高等学校の立場の委員から意見を伺いたい。</p>
佐々木委員	<p>求める生徒像・選抜方法一覧の冊子等は、高等学校側として、当然志望校として考えてもらうために必要な情報・内容を記載しているつもりなので、このような結果になると思う。例えば、特色選抜などで学校の特色を打ち出し、それから、こういう生徒を求めているというところで、配点や調査書点を決めている。そこがこの冊子ではよく伝わらないのではないかと思う。</p> <p>また、学校説明会を実施するなど、説明する機会があれば、こういう観点で調査書と学力検査の割合を決めているなど、いろいろ説明する場があると伝わるかもしれないが、この冊子だけではなかなかそれが伝わりにくかった。そういう考え方というのを伝わるような形にしていくと良いと思う。</p> <p>また、問9だが、高校における入試業務の負担を軽減しているところで、3・4の選択が他のところ比べて大きいのだが、1月、2月にに関して、在校生等に対する時間確保ができ、1月、2月の業務がなくなりその負担が減っているものの、3月の入試業務がタイトにあるので、トータルで見ると、負担軽減していると感じられない部分もあるという意見があった。そういったところが結果に出たと思う。</p>
委員長	<p>茂木委員、願う。</p>
茂木委員	<p>2点ある。16ページの問9の負担軽減については、本校でも、前期選抜はなくなったとはいえ、コロナ対応とか、追試験対応とか、圧縮された形でかなり詰まっているので、印象としては、負担軽減はあまりされていないという声が聞こえてくる。</p> <p>17ページの求める生徒像について、数字の何倍とかいうところの感覚が難しいかもしれない。例えば棒グラフとか、得点を積み重ねていって、共通選抜だとならがるが、特色選抜だと、例えば持ち点がこれぐらいであれば、このようになるという、図があるとイメージしやすい。</p> <p>イメージは非常に大事なので、そのようなものがわかりやすいと思う。ただし、冊子に載せてしまうと、誤解を生じかねないので慎重に考えて欲しい。イメージが掴めないのが現状なので、要するに、具体的にどのように加算されるのかが見えてこない。あと、学力検査と調査書を合わせた総点も学校においてまちまちなので、それが自分にとって有利なのか不利なのかというのが見えてこないため、複数の学校を挙げた場合に、自分の特徴を生かせるか見える形で、視覚にも訴えるような形を、イラストやイメージで置き換えられるものがあると良いと思う。</p>
委員長	<p>河本委員、願う。</p>
河本委員	<p>まず一番大きなものは、特色選抜の透明性だと思う。受験生にとっては、あまり明瞭化されていない試験になっているのではないかと。特色選抜というところで、学校によっては面接を実施している学校もあるし、特色選抜の方も認識している受験生もいるが、実際のところ、合格発表の際に、あなたはこちらの選抜で受かりましたというような結果は、本人には伝えられていない。したがって、自分がどちらで受かったのかというところがわからない限り、どの部分でどのように評価されたか見えないところが、この特色選抜の問題点と感じている。</p> <p>実際のところ、前期後期というのを一本化したときに、多様な選抜を実施することや、受験機会の複数化を保障するために、試験は一本化した中に、2つの選抜方法が導入された経緯があると思うが、結果としてはどちらを尊重するのか。要するにその一本化という期間の短縮を尊重するのか、或いはアンケートにある要望通りに、その特色選抜というふうなものを明瞭化していくのか、どちらを取るかということになる。</p>

	<p>やはり、実施する限りはある程度見えなければいけないし、実際、特色選抜の根底にある求める生徒像を読めば、何となくこのような力を持っていれば評価されるのだろうという目安にはなるが、具体的に各学校が非常に大きな差があるわけでもなく、実際のところ受験生の資質的なところも問われているところがある。学力的な要素など、そういうところでの求める生徒像というのは全く表現されていないので、もう少し具体的にしていくと求める生徒像の有効活用が図られるかと思う。例えば、いろいろな学習発表会や課題研究発表会のときに、積極的にプレゼンテーションをする能力があるなどといったところです。</p> <p>そういういろいろな学力の観点があるかと思うが、どういうところに力を発揮することができる生徒なのかという具体性がもう少し、この求める生徒像の中に含まれていくとわかりやすくなり、活用度合いも上がると思う。この後、保護者の結果も出てくるが、求める生徒像については、意外と保護者の受けが悪いというのは、実際のところ、保護者は自分の子供が中学校で、求める生徒像に相当するようなどの部分がどのように評価されているかということにはわからない。したがって、自分の息子が果たして中学校で、その部分が評価されている子供なのかどうかも伝わっていないので、保護者にとって見れば、その判断基準はわからないというところでの質問に対する保護者受けはあまりよくないのかなと感じる。</p> <p>さらに、気になったところが、後に比較されているが、学習意欲・学習習慣を身に付けることに役立っているというところは、中学校並びに高校どちらも評価が低い。これは入試制度的な問題ではなくて、中学校及び高校が期待する学習指導のあり方の問題かと思う。要するに中学校での指導、それから高校入試の問題。それから高校での学習指導というところに深く繋がった一本線があまり見受けられないので、結局は、高校入試というものが、学習習慣を身に付けさせる機会にあまりなっていない。実際のところの部分の指導がちぐはぐになっている結果の表れだと思う。</p> <p>よって、高校入試の問題も基本的な問題から、思考力を問う問題まで、いろいろ出題されているが、実際のところを中学校では、しっかりと基本を定着させて、そして発展的なものや思考力を問う問題は、仙台市などは塾の方に指導を任せる形になってしまっており、また高校入試の問題についても、大変失礼な言い方かもしれないが、ある程度の期間に詰め込めば何とか対応できるような問題になっていないかという反省も、そこから伺えるのではないかと思う。したがって、中学校でしっかりと時間をかけて学習していかなければ、その問題は対応できないようになっていて、その問題について中学校で対応をした生徒については、高校ではさらに伸ばしますよという、その中学校・高校の学習指導における繋がった指導というものの必要性が、この入試制度の結果から見えるので、今後、やはり宮城県全体の学力の向上を考えた場合には、私学も協力した形でやっていかなければいけないのかなと感じた。</p> <p>先ほど、負担軽減の部分で、私立高校は入試事務に要する出願作業についてはほとんど今Webという形になっている。保護者が直接出願に当たるので、中学校の先生方の負担というのは、ここにあまり表れない。</p> <p>ただ、実際のところ先ほど言ったように、入試期間を考えると、入試に対応する学習指導などそういう面では、やはり負担はあまり変わっていない状況かと思うので、この質問紙の部分についても、入試事務ということに限らず、その入試に関わる業務として、どのような負担があるのかということも聞いてみた方がよかったですのではないかと感じた。</p>
委員長	<p>大変貴重なこれから改善すべきご意見をいろいろいただけたと思う。どうしてもこの入試の負担というのは、これは高校入試のみではなく、大学入試もおそらく中学校入試も実施者にとってはかなりストレスフルな業務になるのは免れることができず、期間だけ短くしてもそれだけ濃密に今度は神経を使うことになる。</p> <p>ストレスがどんどん高くなるということで、負担が大きいという意見の数値を下げるというのは難しいことが、今の日本の教育の構造的な問題の一つと考える。</p> <p>それでは次に質問項目がほぼ同じなので、抽出された学校に任意で協力いただいた生徒と保護者の結果を合わせて見ていく。事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)

委員長	説明について質問願う。菅井委員お願いする。
菅井委員	抽出した学校が普通科から定時制まで校種別に分かれている。この中での集計はとっていないのか。
事務局	現段階では分けたところでの集計まではしてない。
委員長	他にいかがか。では保護者の意見について、PTAの浅野委員お願いする。
浅野委員	<p>保護者の回答率が25%で、少し低いかと感じた。生徒が入試や勉強自体に注力するためには保護者のサポートというのが絶対に必要となる。</p> <p>入試制度等は、説明会をわざわざ地区別で開催しているし、中学校では先生方と二者面談、三者面談という形で、学校や先生方に十分に支えていただいた入試に挑んでいるという保護者の感覚である。まずは保護者も意識を持って生徒をサポートし、制度についても一緒に理解していくということが重要だと思う。</p> <p>横断的に確認した資料で少し気になったのが、29ページの精神的な影響をというところで、生徒と保護者の回答に少し開きがあることから、子供の家庭での様子を保護者がしっかり見て、家庭での話し合いを十分にしたいと思う。</p> <p>25%という回答率も、分母を広げていくと数値が変わってくると思う。</p>
委員長	横に並べる比較について、この4つのカテゴリーで同じ内容の質問をしているところ、他にもあるので、まず比較して見ていきたいと思う。事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>カテゴリーの比較について何か質問願う。</p> <p>(質問なし)</p> <p>次に中学校及び高等学校の入試全般についての自由記述を見ていく。事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明について、何か質問願う。全体を通しての質問でも構わない。
委員長	<p>この自由記述は様々な意見が出ているし、大事な情報かと思うので、また次回以降も、検討を進めることとする。</p> <p>次回の専門委員会に向けて何か意見等あればお願いする。</p>
委員長	<p>改革が行われる前の旧制度は、平成25年度から始まった入試とのことだが、それでも一度同じような調査をしていると伺っている。その時に行われた調査結果と今回の調査結果を比較して、問題となっていた部分が改善されていたのかどうか、もしくは、今回高かったものの、前回はもっと高かったものがあったのではないかなどの分析もできるのではないかと思うので、そういった検討もお願いする。</p>
委員長	<p>時間なので、このあたりで本日の審議を終了する。</p> <p>まず、本日の会議は公開で進めましたが、次回の公開・非公開の取り扱いについて確認する。事務局としての考えを説明願う。</p>
事務局	<p>質問ごとにその選択肢を選ぶにあたっての意見も自由記述として寄せられている。すべて会議資料にすることはなかなか難しい状況である。次回は、こちらで記述内容をある程度集約して、個人情報等がわからない形で検証できる資料を作成する。</p> <p>その上で、次回の専門委員会についても、原則公開で開催を考えている。</p> <p>なお、資料、議事内容はその都度会議後に公表することとともに、専門委員会での議論の内容については、まとめて審議会に報告することを考えている。</p>
委員長	<p>ただいまの事務局からの説明に対し、何かご意見、ご質問等願う。</p> <p>それでは事務局案通り次回も公開でいかがか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>では次回も公開とする。次回の日程について、事務局説明願う。</p>
事務局	(日程の確認・事務連絡)
委員長	本日の審議はこれまでとし進行を事務局にお返すする。
事務局	(閉会)